

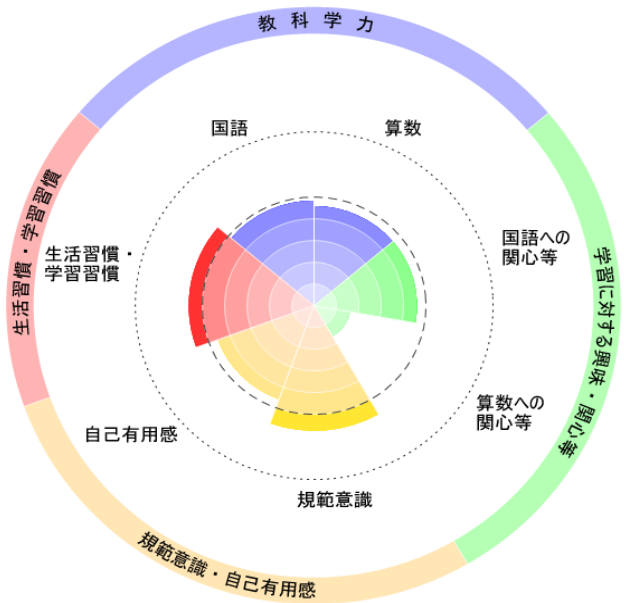
(1)学力調査結果から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策
国語	○記述式の問題で正答率が高く、全国平均を大幅に上回っている。書くことに対する抵抗感が少なく、普段から自分の言葉で書いたり話したりする活動を取り入れている成果が表れている。 ○無回答率が低い。 ●「言語についての知識・理解・技能」の領域の正答率が低く、漢字の適切な表記や接続語の使い方に特に課題がある。 ●文章の要旨を適切に捉える力が必要である。	・漢字の読み書き、接続語等の言語領域のスキル学習を継続し、基礎的な力をつける。また国語辞典などを使って漢字のもつ意味や熟語としての用法にも興味を向けるよう指導を工夫し、日常生活で活用できるようにする。 ・文章中のキーワードを探させたり、接続詞や文末表現に注目させたりして文章の要旨をとらえる活動を充実させる。また自分の書いた文章を読み返し、趣旨が伝わっているか推敲する習慣をつける。
算数	○無回答率は0%で、すべての問題に自分なりに答えを求めようとする真面目な学習態度が身についている。 ○基礎基本的な問題の正答率は高く、特に「数と計算」の領域では全国平均を上回っている。 ●「算数の学習は大切だ」「好きだ」と肯定的に答えている児童の割合が全国平均に対して低く、全体的に算数への関心が低い。内容的にも理解が難しいと感じている児童が多い。 ●記述式の問題の正答率が低く、複数の資料を比較しながら考えたり、分かりやすく説明したりすることに課題がある。	・単元の導入で生活に身近な題材を取り入れたり、学習したことを生活場面で活用する課題を意識的に設定したりして、算数の学習を身近に感じ、有用性を感じられるようにする。また、休み時間や放課後を利用して個別指導の機会をもつ。 ・普段から算数の用語を意識させて考えたり、説明したりするようにさせる。また公式やきまりについて操作活動を通して意味をとらえて実感を伴った理解ができるようにしたり、問題の情報を図や絵を使ってイメージ化できるようにしたりと丁寧な指導をする。

(2)生活意識調査から見られた傾向

	成果と課題(○:成果, ●:課題)	対 策
	○地域の活動に積極的に参加したり、地域の将来について関心をもったりしている。 ○家庭学習への意欲が高く、自分で計画を立てて勉強している児童が多い。 ●「物事を最後までやりとげた」と感じている児童の割合がやや低い。 ●「問題の解決に向けて自分から進んで取り組んでいる」と答えた児童の割合もやや低い。	・学校行事や学校生活の中で責任のある役割を経験させ達成感を味わわせる。またみんなの中で認め合う場を意図的に設ける。 ・児童一人一人が主体的に取り組めるよう、その子にあった声掛けをしたり支援をしたりする。

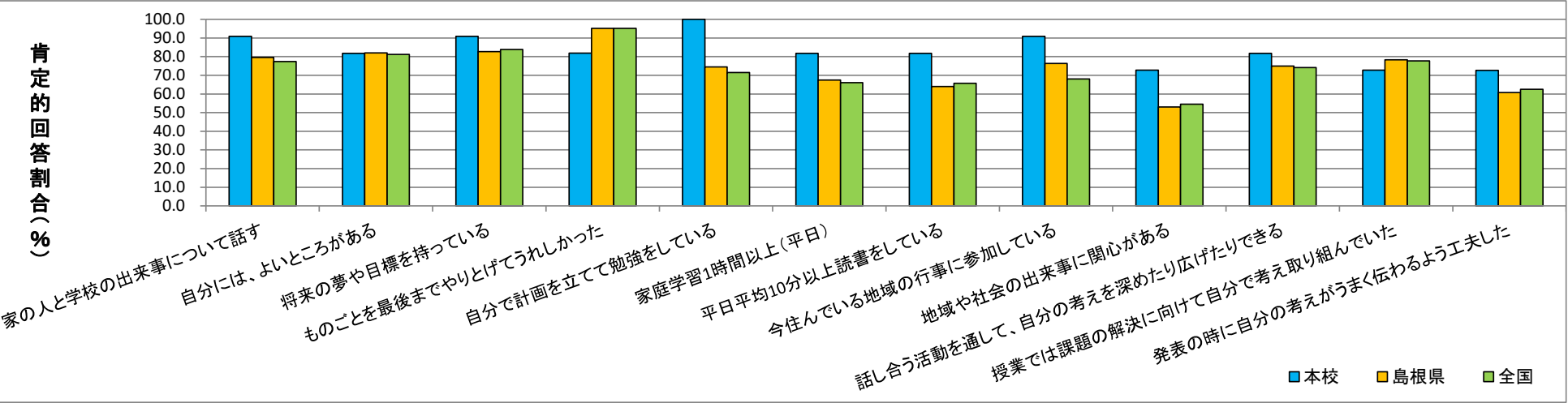
(4)学力調査及び生活意識調査から見られた傾向(破線は全国平均)



(5)その他、今後特に力を入れて取り組むこと

・学習への興味・関心が高まるように、学習対象との出会いや単元の導入を工夫したり、見通しのもてる単元構成や授業展開を考える。また学んだことや分かったことを生活の中にも広げる活用問題を意識的に取り入れ、学習の有用性を感じられるようにする。
・学校図書館の活用を通して読書活動の充実を図るとともに、情報活用能力の育成に努める。

(3)意識調査(学力との相関が指摘されているものや、教育委員会として注目しているものを挙げています)



【参考】

○平均正答率

	本 校	松江市	島根県	全国
国語	62	63	62	63.8
算数	63	66	65	66.6

受検者数 11人
※欠席等により調査によって受検者数が異なる場合は、最少の受検者数をもって表示して下さい。